



令和2年11月27日

園長 大西 三千代



保育参観 ありがとうございます。

11月5日(木)・6日(金)・10日(火)に乳児参観、18日(水)・19日(木)・20日(金)に幼児参観を実施しました。園での普段の様子を見ていただくのは、今年度初めての参観となりました。密を避けるため3グループでの分散参観でしたが、子ども達はお家の方に来ていただく日はとてもうれしそうでした。参観には自由選択活動(自分でしたい遊びを見つけて遊ぶ)の様子を見ていただきました。友達や保育者と一緒に楽しく遊ぶ姿を見ていただけたことと思います。コロナ禍の中、今回の参観を保護者の皆様のご協力が無事に終えることができましたこと、感謝しております。ありがとうございました。

しかし、今後の行事においては最近のコロナウイルス感染者数が増加傾向にあることや、これから寒冷の時期に向かい他の感染症(インフルエンザ・感染性胃腸炎など)も流行する季節とも重なることから状況が大きく変わることが懸念されます。今後も感染症に関わることで行事等の変更をせざるを得ない場合もあるかと思いますが、保護者の皆様にはご理解とご協力をお願いします。

中あてゲーム

乳児参観
3日間、晴れの日が続き、いつものように外で元気に遊ぶ様子を見ていただきました。

衣装ケースのふたで山滑り

ままごとあそび

アスレチックあそび

幼児参観
2日間は良い天気恵まれ今している外遊びの様子を見ていただきました。

電車ごっこ

落ち葉で遊ぼう

鉄棒あそび

廊下でなわとび

0歳児は保育室で

片付けの後の絵本タイム

幼児参観
最終日は雨天のため、廊下や室内で遊ぶ様子を見ていただきました。

～厳しいしつけは大事?～



『子どものいやいや期にしっかりしつけておかないと「わがまま」な子になってしまうのではないかと相談をよく受けます。「がまん」する力はどのようにして育まれるのでしょうか。厳しいしつけは効果的ではないといわれます。それは厳しく叱られるだけでは、叱られるのが怖いからしたいことをしないで、本質的に自分の気持ちをコントロールできていないわけではないのです。「がまん」する力は、自分の感情をコントロールする力とも言い換えられます。大切なのは、自分の気持ちを自分でコントロールできるようにすることなのです。だから、スーパーで「買って!」と泣き叫ぶ子どもに「じゃあ そりに置いていくからね!」と言って叱っても、子どもは置き去りにされる恐怖から買ってもらうことをあきらめることはあっても、主体的に気持ちを切り替えることはできていません。それよりは「今日はいっぱい歩いて頑張ったから、お家に帰ってアイスあげようかな～」というように、気持ちを切り替える選択肢を出す方が気持ちを自分でコントロールするきっかけになります。つまり、最も有効な「しつけ」とは、厳しく叱ったりすることではなく、毎日の生活の中で、子どもが自分で自分の気持ちを切り替えられるように、お手伝いしてあげることなのです。』



絵本のおもしろさに出会うために

『子どもは絵本が大好きです。それでは、絵本の何がおもしろいのでしょうか？1つ目は、絵や色など（視覚）がおもしろいのです。だから、絵本に出会ったばかりの小さな子は、鮮やかな色やはっきりした形を好んだりします。2つ目は、音や言葉（聴覚）がおもしろいのです。「じゃーじゃー」「わんわん」といったオノマトペ（擬音語）に敏感に反応しますし、パピプペポの破裂音も好きです。3つ目は、好きな動物や乗り物などが出てくるものに興味を持ちます。4つ目は、物語のおもしろさです。2～3歳になってくると個人差はありますが、だんだんその傾向が出てきます。5つ目。何よりも大事なのがやり取りのおもしろさです。絵本は読み手とのやり取りが楽しいのです。

絵本はその扉を開くだけで、私たちが物語の世界へ連れて行ってくれる魔法のツールです。子どもにとっての絵本は、大人の読書とは違います。たくさん読んだり、しっかり理解したりすることが重要ではありません。絵本の世界の案内人は子どもです。何度も繰り返し楽しむところがあったり、お気に入りのページしか開きもしない絵本があったり、大人に読んでと繰り返す決まり文句があったり、案内人（こども）のこだわりの旅を大人も楽しみましょう』

園では9月から絵本の貸し出しを始めました。ご家庭で絵本を通して親子で触れ合ったり語ったりすることで、豊かであらう時間となることを願っています。今年度は、絵本系の先生達が毎月「えほんだより」や「おすすめのエほん」のお便りを発行してくれています。玄関にもその時々の絵本を展示しておりますので、是非手に取ってご覧ください。そして昨年度と今年度「公益財団法人 奈良教弘」より、子ども達の夢を育み、健やかな成長を目的として「奈良教弘文庫事業」の助成金を幸運にも受けることができ、新しい絵本を購入することができました。また、毎月1回「右京おはなしの会」の皆さんが来て下さり、子ども達におはなしを届けてくださっています。子ども達は、笑ったり、一緒に悲しんだりワクワクしたり想像したり、いろいろな事を心で感じながらお話を楽しんでいます。



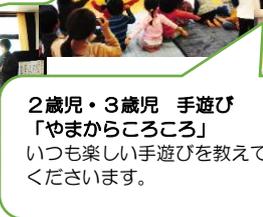
3歳児 パネルシアター
「カレーライス」
「いい匂いしてきた」と子ども達…



4歳児 紙芝居
「ヘそとりごろべえ」
お話と同じ「ヘそとり機」が出てきてビックリ！の子ども達でした。



2歳児・3歳児 手遊び
「やまからころころ」
いつも楽しい手遊びを教えてください。



5歳児 大型絵本
「パパ、おつきさまとって」
先生が読んでくれる絵本よりずっと大きな絵本。



生き物との出会い ～生き物と向き合って学ぶ

『子どもは本来、自然が大好きです。虫などの生き物も、植物も、泥んこも、みんな大好きです。身近な場所から動物園まで、子どもが出会う場所は様々です。見上げるほど大きな動物がいる一方で、手のひらに乗るほど小さな虫がいて、飛んだり跳ねたりそのそ動いたり…。自分とは違う多様な姿は、子ども達にとって魅力的な存在です。恐る恐る大きな犬に近づいたり、バッタを夢中で追いかけて、ダンゴムシをたくさん集めたりと、子どもは体中の神経を集中させて、生き物に向き合うことで、多くのことを学びます。このような経験は「いのち（生命）」を大事にする心を培うのです。特に虫などの生き物との関りは、卵が生まれたり、その虫が死んだりといった経験を通じて、子ども達は「生きる」と「死ぬ」ことを学び、次第に「いのち」を大事にする気持ちが育まれていくのです。』

園庭の草むらや畑は、バッタやカエルがたくさんいる虫捕りの絶好の場所です。毎日数人が虫かごを抱えながら、虫捕りに夢中になる子ども達です。10月ごろ、1歳児のAちゃんがバッタを見つけて手で持つときに持ち方が悪かったのか、後ろ脚がポッと取れてしまいました。「あら！大変」と驚いた保育者の声に慌てて足をくっつけようと必死のAちゃん。「もうお家に帰してあげようか」の声にそっと地面に下ろしてみたもののなかなか動き出さないバッタを見て「どうしたのかな？」とさっき後ろ脚がなくなってしまったことを忘れて心配そうに見つめている姿に愛しさを感じた1コマでした。今はずいぶん寒くなってきて大人気のバッタやカエルの姿は園庭に見られなくなりましたが、毎日数人が畑の野菜を食べている青虫や隅っこでしゃがみこんでんとう虫探しをしている姿を見かけます。

5歳児・1歳児の保育室には夏に飼っていたカブトムシが卵を産んで、みごとに幼虫になりすくすくと育っています。また、メダカの赤ちゃんが生まれ元気に泳いでいるクラスもあります。こうした日々の生活の中で生き物との出会いを通して「いのち」を大切にできる子ども達になるように、心の芽をしっかりと育てていきたいと思うこの頃です。



カブトムシの幼虫がいっぱい！！命を繋いでくれました。



カブトムシの幼虫ツツンしても怖くないよ！



フロッコリーの葉っぱにあお虫発見！

